# 令和７年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性について

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）では，全教科共通の問題作成方針及び各教科・科目の問題作成方針を公表し，問題作成を行っている。

平成 30 年３月に告示された高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）に対応した令和７年度共通テストの各教科・科目の問題作成方針については，以下に示す方向性を踏まえて，問題作成部会に設置されている教科・科目等別問題作成方針分科会において審議の上，令和５年６月（予定）に決定，公表する。

【 目　　次 】


「国語」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・・　2
「地理歴史」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・　3
「公民」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・・　5
「数学」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・・　7
「理科」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・・　8
「外国語」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・　9
「情報」の問題作成方針に関する検討の方向性　・・・・・・・・　12

（別添）
１　試作問題「国語」の概要，試作問題，正解表
２　試作問題「地理歴史」の概要，試作問題，正解表
３　試作問題「公民」の概要，試作問題，正解表
４　試作問題「数学」の概要，試作問題，正解表
５　試作問題「英語」の概要，試作問題，正解表
６　試作問題「情報」の概要，試作問題，正解表

## 「国語」の問題作成方針に関する検討の方向性

○　これまでの問題作成方針で示してきたことを引き続き重視しつつ，新学習指導要領「現代の国語」,「言語文化」それぞれで育成する資質・能力を，試験問題全体を通じて評価する。

具体的には，新たな大問を追加し，より多様な文章を扱うことで，言葉による記録，要約，説明，論述，話合い等の言語活動を重視して，目的や場面に応じて必要な情報と情報の関係を的確に理解する力や，様々な文章の内容を把握したり，適切に解釈したりする力等も含め多様な資質・能力を評価できるようにする。

また，各大問では，引き続き，近代以降の文章（論理的な文章や実用的な文章，文学的な文章），古典（古文，漢文）を題材として，試験時間（90 分）との関係に留意しつつ，それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

→別添１に試作問題と概要を掲載

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（１）国語

○　言語を手掛かりとしながら，文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり，目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章，文学的な文章，実用的な文章），古典（古文，漢文）といった題材を対象とし，言語活動の過程を重視する。問題の作成に当たっては，大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく，異なる種類や分野の文章などを組み合わせた，複数の題材による問題を含めて検討する。

## 「地理歴史」の問題作成方針に関する検討の方向性

（地理総合，歴史総合，公共）

○　『地理総合，歴史総合，公共』では，地理歴史科，公民科の必履修科目（学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目）である３科目に対応した三つを出題範囲として出題する（受験者は，そのうち二つを選択解答する。）。

○　新学習指導要領に示されている，それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

（地理（地理総合，地理探究））

○　『地理総合，地理探究』では，必履修科目である「地理総合」と，その履修後に学習する選択科目である「地理探究」を総合した範囲から出題する。

○　新学習指導要領に示されている「地理総合」及び「地理探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

（歴史（歴史総合，日本史探究，世界史探究））

○　『歴史総合，日本史探究』では，必履修科目である「歴史総合」と，その履修後に学習する選択科目である「日本史探究」を総合した範囲から出題する。

○　『歴史総合，世界史探究』では，必履修科目である「歴史総合」と，その履修後に学習する選択科目である「世界史探究」を総合した範囲から出題する。

○　新学習指導要領に示されている「歴史総合」，「日本史探究」及び「世界史探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添２に試作問題と概要を掲載

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（２）地理歴史

（地理（地理Ａ，地理Ｂ））

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

（歴史（世界史Ａ，世界史Ｂ，日本史Ａ，日本史Ｂ））

○　歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

## 「公民」の問題作成方針に関する検討の方向性

（地理総合，歴史総合，公共）（再掲）

○　『地理総合，歴史総合，公共』では，地理歴史科，公民科の必履修科目（学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目）である３科目に対応した三つを出題範囲として出題する（受験者は，そのうち二つを選択解答する。）。

○　新学習指導要領に示されている，それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

（公共，倫理）

○　『公共，倫理』では，必履修科目である「公共」と，その履修後に学習する選択科目である「倫理」を総合した範囲から出題する。

○　新学習指導要領に示されている「公共」及び「倫理」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

（公共，政治・経済）

○　『公共，政治・経済』では，必履修科目である「公共」と，その履修後に学習する選択科目である「政治・経済」を総合した範囲から出題する。

○　新学習指導要領に示されている「公共」及び「政治・経済」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添３に試作問題と概要を掲載

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（３）公民

（現代社会）

○　現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，図や表など，多様な資料を用いて，データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

（倫理）

○　人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考え方を働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（政治・経済）

○　現代における政治，経済，国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治，経済，国際関係等の客観的な理解を基礎として，文章や資料を的確に読み解きながら，政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計など，多様な資料を用いて，様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（倫理，政治・経済）

○　「倫理」「政治・経済」を総合した出題範囲から，上述の両科目の問題作成の方針を踏まえて問題作成を行う。

## 「数学」の問題作成方針に関する検討の方向性

○　『数学Ⅰ，数学Ａ』及び『数学Ⅰ』については，選択問題を含まず，全てを解答することとする。

○　『数学Ⅱ，数学Ｂ，数学Ｃ』については，「数学Ⅱ」は選択問題を含まず，全てを解答することとし，「数学Ｂ」及び「数学Ｃ」については，４項目のうち３項目の内容の問題を選択解答することとする。従来の『数学Ⅱ・数学Ｂ』から出題範囲が増えることに伴い，各大問の分量については，内容と試験時間（70 分）を踏まえて調整する。

○　これまでの問題作成方針で示されている，「数学的な問題解決の過程」を引き続き重視しつつ，新学習指導要領に示されている，数学の各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

→別添４に試作問題と概要を掲載

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（数学Ⅰ，数学Ⅰ・数学Ａ，数学Ⅱ，数学Ⅱ・数学Ｂ）

○　数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと，構想・見通しを立てること，目的に応じて数・式，図，表，グラフなどを活用し，一定の手順に従って数学的に処理すること，及び解決過程を振り返り，得られた結果を意味付けたり，活用したりすることなどを求める。また，問題の作成に当たっては，日常の事象や，数学のよさを実感できる題材，教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。

## 「理科」の問題作成方針に関する検討の方向性

（物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎）

○　これまでの問題作成方針で示されている，「日常生活や社会との関連を考慮し，科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と，それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解など」を引き続き重視しつつ，新学習指導要領に示されている，各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

（物理，化学，生物，地学）

○　これまでの問題作成方針で示されている，「科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に，基礎を付した科目との関連を考慮しながら，自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり，課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど，科学的に探究する過程」を引き続き重視しつつ，新学習指導要領に示されている，各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎）

○　日常生活や社会との関連を考慮し，科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と，それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解などを重視する。問題の作成に当たっては，身近な課題等について科学的に探究する問題や，得られたデータを整理する過程などにおいて数学的な手法を用いる問題などを含めて検討する。

（物理，化学，生物，地学）

○　科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に，基礎を付した科目との関連を考慮しながら，自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり，課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど，科学的に探究する過程を重視する。問題の作成に当たっては，受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題や，観察・実験・調査の結果などを数学的な手法を活用して分析し解釈する力を問う問題などとともに，科学的な事物・現象に係る基本的な概念や原理・法則などの理解を問う問題を含めて検討する。

なお，大学入試センター試験で出題されてきた理科の選択問題については，設定しないこととする。

## 「外国語」の問題作成方針に関する検討の方向性

（英語）

○　高大接続改革の中で，学習指導要領の趣旨を踏まえ，各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において，「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は，「リーディング」形式と「リスニング」形式の試験問題を通して，文字や音声による試験の特徴を生かしながら，以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。

・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

・併せて，高等学校において，英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと［やり取り］，［発表］」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ，情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために，理解した情報や考えを整理したり，何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

・また，コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙，表現，文法等に関する知識や技能についても，上記の力を問うことを通して引き続き評価する。

○　なお，「リーディング」，「リスニング」ともに，共通テストの問題のレベルは，出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」，「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例，言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際，多様な受験者の学力を適切に識別できるよう，引き続き，CEFR の概ね A1～B1 レベルを目安として問題のテクスト，使用する語彙，タスクなどを設定し，問題を作成することとする。

→別添５に試作問題と概要を掲載

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（６）外国語

（英語）

○　高等学校学習指導要領では，外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて，４技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって，発音，アクセント，語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。

○　「リーディング」「リスニング」ともに，ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に，各 CEFR レベルにふさわしいテクスト作成と設問設定を行うことで，A1 から B1 レベルに相当する問題を作成する。また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　「リーディング」については，様々なテクストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については，現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて，場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

○　「リスニング」については，生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について，概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については，多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

読み上げ回数については，英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ，問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として，1 回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し，重要な情報は形を変えて複数回言及するなど，自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を 1 回読みにする可能性についても今後検証しつつ，当面は１回読みと 2 回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

○　グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す４技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ,「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし，各大学の入学者選抜において，具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては，４技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成 29 年７月）を踏まえた各大学の判断となる。

（英語以外の外国語）

○　英語以外の外国語については，引き続き【筆記】を出題し，【リスニング】は出題しない。

○　「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定」を引き続き重視しつつ，新学習指導要領で示されている，外国語科で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

［参考］令和６年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
（別添）出題教科・科目の問題作成の方針（抄）

（英語以外の外国語［ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語］）

○　英語以外の外国語については，大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し，「リスニング」テストは実施しない。

○　教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　問題作成に当たっては，CEFR 等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。
　その際，大学教育の基礎力を踏まえ，また，高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し，問題作成を行う。

## 「情報」の問題作成方針に関する検討の方向性

（情報Ⅰ）

○　新学習指導要領で示されている「情報Ⅰ」で育成を目指すこととされている資質・能力を重視したものとなるよう検討する。

○　今回公表する試作問題は以下の考えの下で作成した。

・日常的な事象や社会的な事象と情報との結び付き，情報と情報技術を活用した問題の発見・解決に向けての探究的な活動の過程，及び情報社会と人の関わりを重視する。

・社会や身近な生活の中の題材や受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について，情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに，問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

○　試作問題の中にあるプログラム表記は，授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから，受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語でのプログラム表記を用いた。令和７年度試験問題も同様の方向性で検討する。　→別添６に試作問題と概要を掲載

（旧情報（仮））

○　『旧情報（仮）』では，平成 21 年３月に告示された高等学校学習指導要領における情報科の選択必履修科目である二つの科目「社会と情報」及び「情報の科学」に対応した問題を作成する。問題は，二つの科目に共通した必答問題２問とそれぞれの科目に対応した選択問題４問の計６問で構成されており，受験者は，必答問題２問と選択問題２問を選択解答する。

○　今回公表する試作問題は以下の考えの下で作成した。

・情報社会と人の関わりや社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響，それらを問題解決の場面などで活用するための知識と技能，及び情報に関する科学的な見方や考え方を重視する。

・社会や身近な生活の中の題材や受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について，情報社会と人との関わりや情報に関する科学的な見方や考え方を基に考察する力を問う問題などや，問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。

○　試作問題の中にあるプログラム表記は，授業で多様なプログラミング言語が利用される可能性があることから，受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の日本語でのプログラム表記を用いた。令和７年度試験問題も同様の方向性で検討する。　→別添６に試作問題と概要を掲載